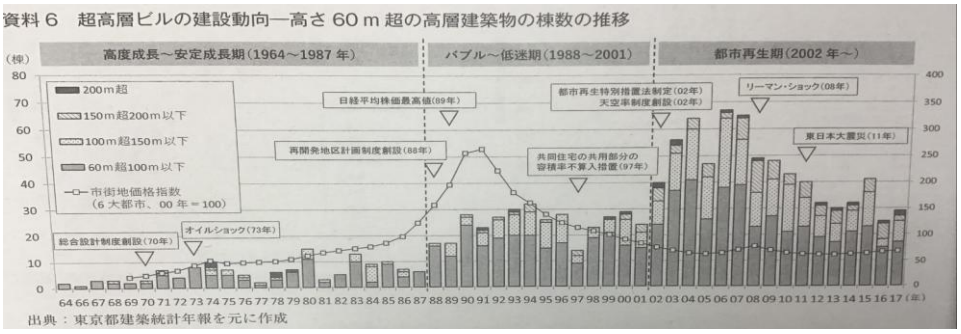
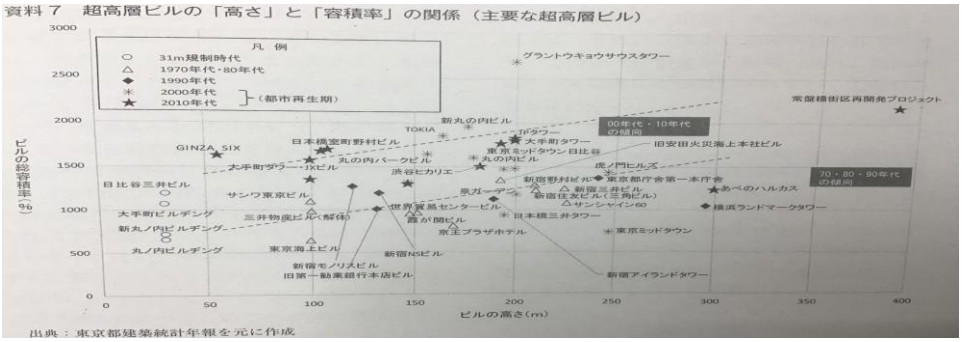
『都市問題』都市東京の 100 年

写真は『都市問題』6 月号の表紙。特集は「都市東京の 100 年」である。東京市政の科学化を通した都市自治の発展、市民生活の向上、都市問題の解決を目的に掲げて 1922 年 2 月 24 日に創設された東京市政調査会は、その名称のとおり都市東京への関心を活動の基本に置き、都市東京に在り続けてきた。本号では財団創立 100 周年という節目に、都市東京の変容の様態を個別的・具体的にとらえるとともに、その未来の姿について議論する。

前半は、2022 年 1 月に開催したシンポジウムの講演を収録する。シンポジウムでは、この 100 年間のうちに東京で生起し、大きなインパクトをもたらした出来事を取り上げ、それを切り口にしながら都市東京の 100 年を俯瞰する講演・パネルディスカッションを行った。後半は、ガバメントが東京の都市づくりにおいて何を計画し、どのようにマネジメントしてきたのか 5 つのテーマで検証する。

記念シンポジウムの講演は、関東大震災と東京（栢木まどか）、東京の戦後復興と高度経済成長―都市づくりの構想の系譜（中島直人）、バブル・ポストバブル期の東京―「規制緩和」がつくった都市空間（大澤昭彦）。パネルディスカッションは西村幸夫氏が司会をつとめた。示唆に富むシンポジウムであり、多くの情報と知見を得ることができた。ここでは、『現代社会資本論』有斐閣で東京の大規模開発について執筆したとき、すこし調べた超高層ビルに関わる資料を紹介したい。





（2022 年 6 月 15 日）